

1. 略歴

1998年4月	北海道大学文学部人文科学科 入学
2002年3月	同 卒業
2002年4月	北海道大学大学院文学研究科修士課程 入学
2004年3月	同 修了
2004年4月	北海道大学大学院文学研究科博士後期課程 進学
2007年3月	同 修了 博士(文学)
2007年4月	日本学術振興会特別研究員 (PD)
2009年4月	同志社大学文学部助教
2013年4月	同志社大学文学部准教授
2018年4月	同志社大学大学院文学研究科博士前期課程准教授
2019年4月	同志社大学大学院文学研究科博士前期課程教授
2021年4月	東京大学大学院人文社会系研究科准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

現代アメリカ文学、英語圏文学、翻訳論

b 研究課題

現代アメリカ小説における「偶然の土着性」

c 概要と自己評価

21世紀の英語圏文学、特にアメリカの小説をめぐって、1)移民系作家における戦争や紛争の記憶の表象、2)新自由主義経済における文学の役割に対する各作家の距離感、の2点を中心に研究を進めている。2019～2022年度は上記の研究課題名で科研費の助成を受け、論文発表および口頭発表を行っている。

d 主要業績

(1) 論文

藤井光、「ポール・ユーンにおけるディアスポラの記憶と物語の空白——「ウラジオストク駅」とサハリンをめぐって——」、『れにくさ』、12、19-36頁、2022.3

(2) 解説

藤井光、「パンデミックと『つながり』の物語——『デカメロン・プロジェクト』と『最後のライオン』を巡って」、『文藝』、2022年春季号、438-444頁、2022.1

藤井光、「翻訳と「裏切り」をめぐって」、『群像』、77巻4号、185-195頁、2022.3

藤井光、「2018年の小説が想像する、資本主義と物語の感染性」、『文化交流研究』、35号、19-28頁、2022.3

(3) 学会発表

国内、藤井光、「歴史と物語が21世紀に創出するステージの内と外」、日本英文学会第93回全国大会シンポジウム第7部門、オンライン、2021.5.23

国内、藤井光、「2010年代のアメリカ小説における「病」の感染性」、第66回日本英文学会北海道支部大会シンポジウム「アメリカ文学と病」、2021.11.7

(4) 翻訳

個人訳、Colson Whitehead, "The Nickel Boys", 藤井光、『ニッケル・ボーイズ』、早川書房、2020.11

個人訳、Ling Ma, "Severance", 藤井光、『断絶』、白水社、2021.3

個人訳、Alfian Sa'at, "Malay Sketches", 藤井光、『マレー素描集』、書肆侃侃房、2021.10

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

非常勤講師、同志社大学文学部、「Senior Seminar I」「Senior Seminar II」「英米文学演習 I」「英米文学演習 II」、2021.4～